

医療現場からの発信を目標にして

2010年末より国が開始した「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業」を受け、千葉県下全ての自治体がヒブ、小児用肺炎球菌、HPVワクチンを無料で接種できる助成制度を設けている。中でもいすみ市は、その他に水痘、ムンプス、B型肝炎の予防接種をも無料で受けられるという、全国でも最も充実した制度をいち早く構築した。

今回、そのいすみ市で外房こどもクリニックを開業する黒木春郎先生にお話を伺った。

「現場」にこだわって

インタビューを通じて、幾度となく「現場」というキーワードが登場する。先生の現在に至る

までのターニングポイントに、必ずといってよいほど重視されてきたのが「現場」意識だ。

開業前、母校の千葉大学で教官を務めていた先生。開業のいきさつは、「患者さんの日常生活に密着した地域臨床医療の場から、医療全体を向上させる発信をしたかったから」と話される。遡ると、医師を志した理由も、「高校時代、自分が社会に出るためには資格が必要ではと考えました。会社等の組織には適応できないんじゃないかと思つて。中でも『現場』でやる実質的な資格が良かったんです」と、ここでも「現場」がポイントとなっている。小児科医をめざしたのも、「生活に近い場所」で全身を診る小児

科に魅力を感じたから。一貫して臨床の場への拘りを持ち続けられる。

開業当初は様々な不安から「うじうじしていた」時もあつたと話される先生だが、今では「住民が育ててくれている、支えられている実感を持てたこと」を喜びと感じられて

いると相好を崩される。開業地のいすみ市は冒頭に紹介したように、全国で最も任意接種費用の助成制度が充実した自治体

のひとつ。「太田市長が頑張ったから」と話されるが、地域で小児医療を支え啓発活動に努める黒木先生の存在無しにはもたらされることのなかった制度であらう。

「とてもありがたいです。ワクチンの普及につながり、接種率も上がっています。B型肝炎ワクチンの接種率は6〜7割程度に達しています」と、現場への恩恵を実感されているようだ。

「妖怪は精霊」

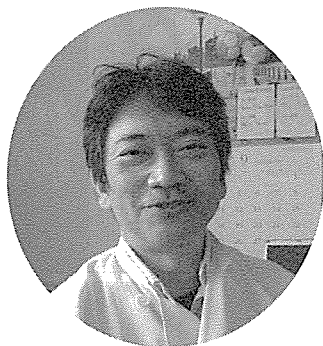
される先生。妖怪好きも「妖怪は精霊の一種」と

昭和32年、東京都品川区生。昭和59年、千葉大学医学部卒業。関連病院勤務を経て、平成10年、千葉大学医学研究小児病態学教官就任。(医)永津会齋藤病院小児科勤務を経て、平成17年、外房こどもクリニックを開業。本年度から保険医協会理事に就任。

会員をたずねて

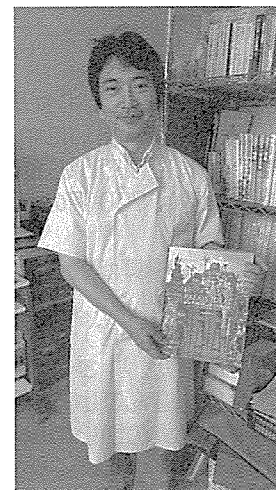
＝ 255 ＝

こんにちは



黒木 春郎 先生

とことん臨床の現場にこだわる先生だが、意外な一面も。医学書や専門書が並ぶクリニックの医局の書架に、「水木しげの」の本が並ぶ。意外に感じ先生に尋ねたところ、他にも柳田國男の著書や漫画家の諸星大二郎のファンとのこと。「諸星の『孔子暗黒伝』が孔に子に関する一番の文献」と話される。神社や古墳等も好きとのこと、「古きから人がいる場所が落ちること強く懸念される。ち着く」と千年以上も祀られ続けている神社を訪れることもしばしば。「聖地、精霊が好き」と話



▲書架に並ぶ聖地・精霊もののひとつ「シュヴァルの理想宮」を手にする先生。